

中学校国語教科書の文学教材について

高木 徹*

Literary Teaching and Learning Materials of Junior High School Japanese Text Books

TAKAGI Toru

要 約

現行の中学校国語教科書(5社)に掲載されている教材に関する調査報告である。主に文学教材を対象とし、小説、詩、近代短歌、近代俳句、説明・評論、随筆・随想、古文、漢文の各分野で、どのような教材が採用されているかを調査し、頻出する教材が何であるかを明らかにしたものである。

キーワード：中学校国語教科書、定番教材、頻出教材

1. はじめに

現行の中学校国語教科書(5社)に掲載されている教材に関する調査報告である。主に文学教材を対象とし、小説、詩、近代短歌、近代俳句、説明・評論、随筆・随想、古文、漢文の各分野で、どのような教材が採用されているかを調査し、頻出する教材が何であるかを明らかにした。

調査対象は2016年度用の中学校国語教科書で、学校図書、教育出版、三省堂、東京書籍、光村図書の5社の3学年分、計15冊¹⁾である。

中学校教員にとっては、使用している教科書の教材が、標準的なものか、やや特殊なものかがわかる調査であり、有効に活用できるものと思われる。例えば、光村図書の教科書で森鷗外「高瀬舟」を教える際には、他社が採用している「最後の一句」を発展的な読書案内として生徒に紹介することができる。

また高校教員にとっては、新入生が中学校でおおよそ何を学んできたかを把握することができるもの

である。古文の分野を例に挙げれば、和歌を除けば、『竹取物語』『枕草子』『平家物語』『徒然草』『おくの細道』の5作品については、ほんの一部とは言え、中学校で学んでいるということがわかり、それを前提にして、古文の学習指導を行うことが可能となるであろう。

2. 小説

1年ではヘルマン＝ヘッセの「少年の日の思い出」²⁾、2年では太宰治の「走れメロス」³⁾、3年では魯迅の「故郷」⁴⁾と、5社とも同じ教材が採用されている。

それ以外の小説に関しては、各社で対応が異なる。

夏目漱石の「坊っちゃん」については、5社とも採用しており、掲載箇所は冒頭から、東京を出立する場面の(清が)「なんだか大変小さく見えた。」までであり、各社完全に横並びである。ただ、教科書の中の位置づけや学年は教科書会社によって異なる。

光村図書(1年)⁵⁾では、学習単元の外に位置づけられ、「資料」に掲載されている。教育出版(2年)⁶⁾

* 中部大学現代教育学部現代教育学科

と三省堂（3年）⁷⁾では学習單元の中に位置づけられている。東京書籍（2年）⁸⁾は「読書への招待」、学校図書（2年）⁹⁾は「読書」、の頁として掲載されており、教育出版・三省堂に比べると、やや周縁的な扱いと言えようか。

森鷗外に関しては、4社が掲載している。教育出版（3年）¹⁰⁾と東京書籍（3年）¹¹⁾では「最後の一句」を、光村図書（3年）¹²⁾は「高瀬舟」を掲載している。学校図書（1年）¹³⁾は、「読書」の頁で「木精」を掲載しており、他の3社と学年も作品も異なる。三省堂は森鷗外作品を掲載していない。

芥川龍之介に関しても、4社が掲載している。三省堂（1年）¹⁴⁾と東京書籍（1年）¹⁵⁾は「トロッコ」を、教育出版（1年）¹⁶⁾は「蜘蛛の糸」を掲載している。学校図書（3年）¹⁷⁾は「読書」の頁に「少年 四海」を掲載しており、ここでも独自路線である。光村図書は芥川龍之介作品を掲載していない。

学校図書、三省堂、光村図書（いずれも3年）の3社の教科書に採用されている作品として、井上ひさしの「握手」（『ナイン』より）¹⁸⁾がある。

他に中学校教科書によく掲載されている作家として、宮沢賢治、別役実、椎名誠、重松清（それぞれ2社が掲載）といったところである。

3. 詩

全社が採用しているのが谷川俊太郎の詩であるが、掲載作品と学年は異なる。学校図書（1年）¹⁹⁾「はる」、三省堂（1年）²⁰⁾は「朝のリレー」、東京書籍（2年）²¹⁾は「未来へ」、教育出版（3年）²²⁾と光村図書（3年）²³⁾は「春に」である。よく知られた作品の多い詩人だけに、掲載される詩も様々である。

古いところでは、島崎藤村の「初恋」²⁴⁾を、学校図書を除く4社が、いずれも3年の教科書に掲載している。

その他に掲載の多い詩人として、八木重吉（「虫」²⁵⁾が2社）、三好達治、吉野弘、新川和江（「名づけられた葉」²⁶⁾が2社）をそれぞれ3社が採用している。北原白秋（いずれも「落葉松」²⁷⁾、草野心平、石垣りん（いずれも「挨拶 原爆の写真に寄せて」²⁸⁾、茨木のり子、牟礼慶子（いずれも「見えないだけ」²⁹⁾、寺山修司をそれぞれ2社が採用している。

4. 近代短歌

近代の短歌³⁰⁾で中学校の教科書によく掲載されているのは、次の四首である。

くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに
春雨のふる 正岡子規
白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染ま
ずただよふ 若山牧水
不來方のお城の草に寝ころびて／空に吸はれし／
十五の心 石川啄木
観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一
よ 生 栗木京子

「くれなゐの」は教育出版を除く4社、「白鳥は」は学校図書を除く4社、「不來方の」と「観覧車」は教育出版を除く4社、が掲載している。教育出版は「不來方の」の代わりに、石川啄木の「やはらかに柳あをめる」と「ふるさとの訛なつかし」の二首を掲載している。知名度の高いこれらの歌の方が、啄木の歌の選択としては納得できる。

教育出版の独自性が目立つが、教科書編集委員に歌人の佐佐木幸綱が入っていることの影響であろうか。もっとも、三省堂は俵万智、東京書籍は道浦母都子が、やはり編集委員として加わっているのではあるが。

上の4人以外で教科書によく登場する近代の歌人は以下のとおりである。

斎藤茂吉（5社）。そのうち「みちのくの母のいのちを」「死に近き母に添寝の」をそれぞれ2社が掲載。いずれも母の死に際して詠まれた連作の中の一詩である。

与謝野晶子（4社）。そのうち2社が「なにとなく君に待たるる」を掲載。

寺山修司（4社）。そのうち2社が「海を知らぬ少女の前に」を掲載。

俵万智（4社）。そのうち2社が「寒いね」と話しかければ」を掲載。

北原白秋（3社）。そのうち2社が「草わかば色鉛筆の」を掲載。

穂村弘（3社）。

なお、どの教科書会社も中学2年に短歌の学習を

位置づけているため、他の学年の教科書に近代短歌はほとんど登場しない。

5. 近代俳句

近代の俳句³¹⁾で中学校の教科書によく掲載されているのは、次の四句である。

いくたびも雪の深さを尋ねけり 正岡子規
 春風や鬨志いだきて丘に立つ 高浜虚子
 分け入つても分け入つても 青い山 種田山頭火
 万緑の中や吾子の齒生え初むる 中村草田男

「いくたびも」は教育出版・三省堂・光村図書の3社が、「春風や」は学校図書・教育出版・東京書籍の3社が、「分け入つても」は教育出版を除く4社が、「万緑の」は5社すべてが掲載している。

高浜虚子に関しては、「桐一葉日当りながら落ちにけり」を2社が掲載している。

教育出版は「分け入つても」の代わりに、同じ種田山頭火の「夕立やお地藏さんもわたしもずぶぬれ」を掲載している。この句の方が中学生には理解しやすいだろうか。

上の4人以外で教科書によく登場する近代の俳人は以下のとおりである。

飯田蛇笏 (4社)。そのうち「芋の露連山影を正しうす」「をりとりてはらりとおもきすすきかな」をそれぞれ2社が掲載。

水原秋桜子 (4社)。そのうち「滝落ちて群青世界とどろけり」「冬菊のまとふはおのがひかりのみ」をそれぞれ2社が掲載。

中村汀女 (3社)。そのうち2社が「咳の子のなぞなぞあそびきりもなや」を掲載。

山口誓子 (3社)。そのうち2社が「つきぬけて天上の紺曼珠沙華」を掲載。

石田波郷 (3社)。そのうち2社が「バスを待ち大路の春をうたがはず」を掲載。

尾崎放哉、加藤楸邨 (それぞれ3社)。掲載句はすべて異なる。

なお、どの教科書会社も中学3年に俳句の学習を位置づけているため、他の学年の教科書に近代俳句が登場するのはごく稀である。

6. 説明・評論

この分野では「定番」と呼べるような教材はなく、各社の独自性が発揮されている。

複数の教科書に登場する筆者としては、次の4人が挙げられる。

高槻成起。生態学者で、学校図書 (1年)³²⁾では「生物が消えて行く」、東京書籍 (1年)³³⁾では「オオカミを見る目」が掲載されている。

古田ゆかり。サイエンス・ライターで、教育出版 (1年)³⁴⁾では「電子レンジの発想」、東京書籍 (1年)³⁵⁾では「資料編」に「常識」は変化する」が掲載されている。

池上彰。東京書籍 (1年)³⁶⁾では「ニュースの見方を考えよう」、光村図書 (2年)³⁷⁾では「メディアと上手に付き合うために」が掲載されている。

内山節。学校図書 (3年)³⁸⁾では「武蔵野の風景」、教育出版 (3年)³⁹⁾では「歴史は失われた過去か」が掲載されている。

7. 随筆・随想

この分野で「定番」と呼べる教材は、向田邦子の「字のない葉書」⁴⁰⁾だけであり、教育出版を除く4社が掲載している。配当学年は、学校図書・三省堂が1年で、東京書籍・光村図書は2年である。

他に複数の教科書に登場する筆者は大江健三郎で、学校図書 (2年)⁴¹⁾に「吟味された言葉」、光村図書 (3年)⁴²⁾に「読書記録をつける」(大江の談話をまとめた新聞記事)が掲載されている。

8. 古文

中学校1年⁴³⁾では5社とも『竹取物語』を採用し、掲載部分も冒頭と昇天場面で共通している。『竹取物語』以外の掲載作品は各社で異なり、学校図書は『宇治拾遺物語』、教育出版は『東海道中膝栗毛』、東京書籍は『伊曾保物語』、光村図書は「いろは歌」と、古文入門に親しみやすい教材を採用するための工夫が感じられる。

中学校2年⁴⁴⁾は『枕草子』『平家物語』『徒然草』でほぼ共通しているが、学校図書だけは『枕草子』

を3年に配当している。

『枕草子』に関し、冒頭の「春はあけぼの」は5社共通で、それ以外の章段では、学校図書・教育出版・三省堂の3社が「うつくしきもの」を掲載している。

『平家物語』に関し、冒頭の「祇園精舎」は5社共通で、それ以外の章段では、学校図書・教育出版・三省堂の3社が「敦盛の最期」を、東京書籍・光村図書の2社が「那須与一」を掲載している。

『徒然草』に関し、冒頭の「つれづれなるままに」は5社共通で、学校図書を除く4社は「仁和寺にある法師」を掲載している。その他の章段では、教育出版・三省堂が「ある人、弓射ることを習ふに」を掲載している。

中学校3年⁴⁵⁾は、『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の和歌と『おくの細道』でほぼ共通している（前述のように学校図書だけは『枕草子』を3年に配当）。

『万葉集』の中でよく掲載されているのは次の歌である。

春過ぎて夏来るらし白たへの衣干したり天の香
具山 持統天皇
君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸のすだれ動か
し秋の風吹く 額田王
天地の あめつち 分かれし時ゆ かむ 神さびて 高く貴き
駿河なる 富士の高嶺を ……
反歌
田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ富士の高
嶺に雪は降りける 山部赤人
銀 しろかね も金 こがね も玉も何せむに優れる宝子にしかめや
も 山上憶良
多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの子の
ここだ愛しき 東歌

「春過ぎて」「君待つと」「銀も」「多摩川に」はそれぞれ3社が掲載し、長歌の「天地の」も3社、反歌の「田子の浦ゆ」は4社が掲載している。

『古今和歌集』に関しては、「仮名序」が、三省堂・東京書籍・光村図書の3社に掲載されている。『古今和歌集』の中でよく掲載されているのは次の三首である。

人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香にに
ほひける 紀貫之
秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ
おどろかれぬる 藤原敏行
思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば
覚めざらましを 小野小町

「人はいさ」「秋来ぬと」はそれぞれ3社、「思ひつつ」は東京書籍を除く4社で掲載されている。

また『新古今和歌集』の中でよく掲載されているのは次の歌であり、学校図書を除く4社が掲載している。

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶること
の弱りもぞする 式子内親王

『おくの細道』に関しては、掲載箇所が5社共通で、いずれも冒頭の「旅立ち」と「平泉（「夏草や兵どもが夢の跡」の句を含む）」が掲載されている。それに加え、教育出版・三省堂は「立石寺（「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」の句を含む）」も掲載している。

9. 漢文

中学校1年で故事成語を扱うのは5社共通であるが、学校図書・教育出版は2年で『論語』、3年で漢詩を学習するのに対し、三省堂・東京書籍・光村図書は2年で漢詩、3年で『論語』と、学年配当が逆になっている⁴⁶⁾。

故事成語に関しては、5社とも「矛盾」を掲載している。学校図書は「矛盾」の前に「五十歩百歩」を載せている点で他社と異なる。

漢詩に関しては、最も掲載が多いのは杜甫の五言律詩「春望（「国破れて山河在り）」」であり、5社すべてが掲載している。次が李白の七言絶句「黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」であり、学校図書を除く4社が掲載している。学校図書では、「黄鹤楼」の代わりに李白の五言絶句「静夜思」が掲載されており、どの教科書で学んでも李杜を学べるようになっている。

『論語』に関して最も掲載が多いのは、「学而時習

之、不亦説乎。」(学而)と「学而不思則罔。思而不学則殆。」(為政)であり、それぞれ3社が掲載している。次が「吾十有五而志于学。」(為政)、「温故而知新、可以為師矣。」(為政)、「己所不欲、勿施於人。」(衛霊公)であり、それぞれ2社が掲載している。

註

1) 調査対象は以下の15冊である。三省堂の教科書は奥付に検定済の年月日が記されていない。

野地潤家・新井満 他28名『中学校国語1』(学校図書)

2015年3月6日検定済み、2016年2月10日発行

野地潤家・新井満 他28名『中学校国語2』(学校図書)

2015年3月6日検定済み、2016年2月10日発行

野地潤家・新井満 他28名『中学校国語3』(学校図書)

2015年3月6日検定済み、2016年2月10日発行

田近洵一・北原保雄 ほか32名『伝え合う言葉 中学国語1』(教育出版)

2015年3月6日検定済、2016年1月10日発行

田近洵一・北原保雄 ほか32名『伝え合う言葉 中学国語2』(教育出版)

2015年3月6日検定済、2016年1月10日発行

田近洵一・北原保雄 ほか32名『伝え合う言葉 中学国語3』(教育出版)

2015年3月6日検定済、2016年1月10日発行

中洩正堯 ほか39名『現代の国語1』(三省堂)
2016年2月25日発行

中洩正堯 ほか39名『現代の国語2』(三省堂)
2016年2月25日発行

中洩正堯 ほか39名『現代の国語3』(三省堂)
2016年2月25日発行

三角洋一・相澤秀夫 ほか35名『新編 新しい国語1』(東京書籍)

2015年3月6日検定済、2016年2月10日発行

三角洋一・相澤秀夫 ほか35名『新編 新しい国語2』(東京書籍)

2015年3月6日検定済、2016年2月10日発行

三角洋一・相澤秀夫 ほか35名『新編 新しい国語3』(東京書籍)

2015年3月6日検定済、2016年2月10日発行

甲斐陸朗 ほか27名『国語1』(光村図書出版)

2015年3月6日検定済、2016年2月5日発行

甲斐陸朗 ほか27名『国語2』(光村図書出版)

2015年3月6日検定済、2016年2月5日発行

甲斐陸朗 ほか27名『国語3』(光村図書出版)

2015年3月6日検定済、2016年2月5日発行

- 2) 学校図書『中学校国語1』 pp. 222-233、教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』 pp. 190-202、三省堂『現代の国語1』 pp. 152-162、東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 156-168、光村図書『国語1』 pp. 202-215
- 3) 学校図書『中学校国語2』 pp. 118-131、教育出版『伝え合う言葉 中学国語2』 pp. 204-220、三省堂『現代の国語2』 pp. 160-176、東京書籍『新編 新しい国語2』 pp. 152-168、光村図書『国語2』 pp. 192-208
- 4) 学校図書『中学校国語3』 pp. 218-233、教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 162-176、三省堂『現代の国語3』 pp. 154-168、東京書籍『新編 新しい国語3』 pp. 154-168、光村図書『国語3』 pp. 106-120
- 5) 光村図書『国語1』 pp. 264-273
- 6) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語2』 pp. 134-145
- 7) 三省堂『現代の国語3』 pp. 184-196
- 8) 東京書籍『新編 新しい国語2』 pp. 214-225
- 9) 学校図書『中学校国語2』 pp. 91-97
- 10) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 130-145
- 11) 東京書籍『新編 新しい国語3』 pp. 214-228
- 12) 光村図書『国語3』 pp. 80-92
- 13) 学校図書『中学校国語1』 pp. 102-107
- 14) 三省堂『現代の国語1』 pp. 194-203
- 15) 東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 214-221
- 16) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』 pp. 124-129
- 17) 学校図書『中学校国語3』 pp. 101-105
- 18) 学校図書『中学校国語3』 pp. 44-55、三省堂『現代の国語3』 pp. 30-41、光村図書『国語3』 pp. 18-28
- 19) 学校図書『中学校国語1』 扉
- 20) 三省堂『現代の国語1』 pp. 14-15
- 21) 東京書籍『新編 新しい国語2』 見返し
- 22) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 14-15
- 23) 光村図書『国語3』 pp. 16-17
- 24) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 160-161、三省堂『現代の国語3』 pp. 150-152、東京書籍『新編 新しい国語3』 pp. 124-125、光村図書『国語3』 pp. 178-179
- 25) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』 p. 185、東京書籍『新編 新しい国語1』 p. 25
- 26) 三省堂『現代の国語2』 pp. 14-16、東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 212-213
- 27) 東京書籍『新編 新しい国語2』 pp. 114-115、光村図書『国語2』 pp. 176-177
- 28) 学校図書『中学校国語2』 pp. 224-226、光村図書『国語3』 pp. 102-105
- 29) 三省堂『現代の国語1』 pp. 146-148、光村図書『国語2』

- pp. 16-17
- 30) 各社の近代短歌の掲載ページは次のとおりである。学校図書『中学校国語2』 pp. 56-59、教育出版『伝え合う言葉 中学国語2』 pp. 82-85、三省堂『現代の国語2』 pp. 52-58、東京書籍『新編 新しい国語2』 pp. 21-24、光村図書『国語2』 pp. 64-68
- 31) 各社の近代俳句の掲載ページは次のとおりである。学校図書『中学校国語3』 pp. 64-67、教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 156-159、三省堂『現代の国語3』 pp. 54-60、東京書籍『新編 新しい国語3』 pp. 21-24、光村図書『国語3』 pp. 66-70
- 32) 学校図書『中学校国語1』 pp. 251-252
- 33) 東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 62-67
- 34) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』 pp. 138-141
- 35) 東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 278-281
- 36) 東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 186-190
- 37) 光村図書『国語2』 pp. 56-58
- 38) 学校図書『中学校国語3』 pp. 124-128
- 39) 教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 84-86
- 40) 学校図書『中学校国語1』 pp. 14-19、三省堂『現代の国語1』 pp. 74-78、東京書籍『新編 新しい国語2』 pp. 32-35、光村図書『国語2』 pp. 106-109
- 41) 学校図書『中学校国語2』 pp. 16-18
- 42) 光村図書『国語3』 p. 192
- 43) 中学校1年で各社の古文の掲載ページは次のとおりである。学校図書『中学校国語1』 pp. 170-188、教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』 pp. 104-117、三省堂『現代の国語1』 pp. 100-113、東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 128-146、光村図書『国語1』 pp. 140-156
- 44) 中学校2年で各社の古文の掲載ページは次のとおりである。学校図書『中学校国語2』 pp. 178-195、教育出版『伝え合う言葉 中学国語2』 pp. 106-122、三省堂『現代の国語2』 pp. 160-176、東京書籍『新編 新しい国語2』 pp. 118-140、光村図書『国語2』 pp. 32-33、pp. 132-143
- 45) 中学校3年で各社の古文の掲載ページは次のとおりである。学校図書『中学校国語3』 pp. 160-170、pp. 178-183、教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 104-119、三省堂『現代の国語3』 pp. 104-122、東京書籍『新編 新しい国語3』 pp. 128-142、光村図書『国語3』 pp. 134-152
- 46) 各社の漢文の掲載ページは次のとおりである。中学校1年。学校図書『中学校国語1』 pp. 191-194、教育出版『伝え合う言葉 中学国語1』 pp. 120-122、三省堂『現代の国語1』 pp. 116-121、東京書籍『新編 新しい国語1』 pp. 148-151、光村図書『国語1』 pp. 158-162
- 中学校2年。学校図書『中学校国語2』 pp. 198-200、教育出版『伝え合う言葉 中学国語2』 pp. 126-128、三省堂『現代の国語2』 pp. 122-124、東京書籍『新編 新しい国語2』 pp. 142-144、光村図書『国語2』 pp. 146-152
- 中学校3年。学校図書『中学校国語3』 pp. 173-176、教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 pp. 124-129、三省堂『現代の国語3』 pp. 124-127、東京書籍『新編 新しい国語3』 pp. 144-147、光村図書『国語3』 pp. 32-34

受付日 2018年 9月28日

受理日 2018年10月30日